

●主催
横浜開港資料館／宮内庁宮内公文書館
●共催
横浜市教育委員会
●協力
横浜市史資料室／横浜都市発展記念館
●後援
朝日新聞横浜総局／神奈川新聞社
産経新聞社横浜総局／東京新聞横浜支局
日本経済新聞社横浜支局／毎日新聞横浜支局
読売新聞東京本社横浜支局
NHK横浜放送局／+Vik

宮内省文書が語る
地域史

明治天皇、

横浜へ



2016 2017
10/28 *fri.* — 1/29 *sun.*

●開館時間
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
●休館日
毎週月曜日(但し、1/9は開館)、12/28～1/3、1/10
●入館料
一般200円／小・中学生100円
団体(20人以上)割引あり

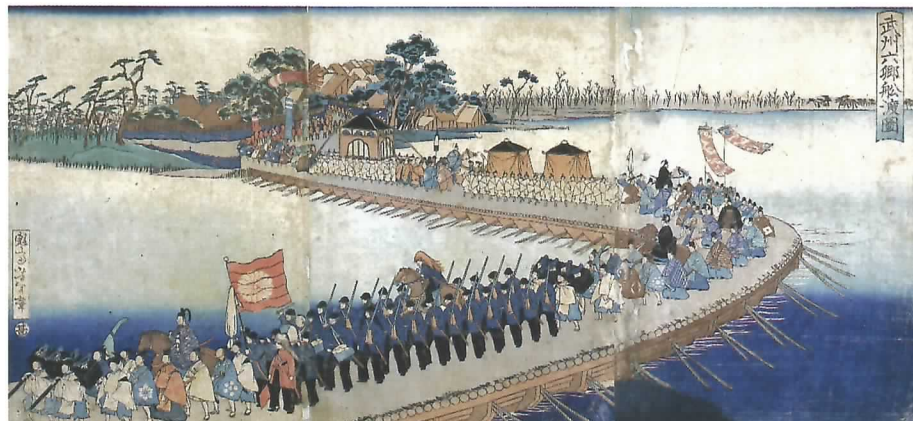
東急東横線・みなとみらい線日本大通り駅下車
〒231-0021 横浜市中区日本大通3 TEL045-201-2100

横浜開港資料館 (旧英国総領事館)

Yokohama Archives of History

<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>





武州六郷船渡図 1868(明治元年) 魁斎芳年画 横浜開港資料館蔵

明治天皇、横浜へ

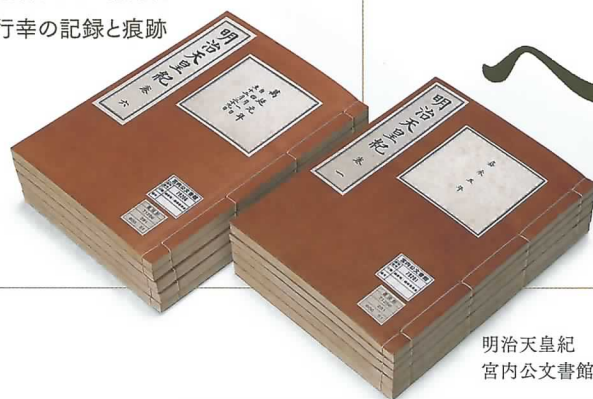
宮内省文書が語る地域史

明治維新後、京都から東京へ住まいを移した明治天皇は、たびたび横浜を訪れ、政府の推進する近代化政策、「殖産興業」や「富国強兵」の場面に立ち会います。横浜は海外に開かれた港を中心に、近代日本の国家的行事の舞台になりました。もちろん、横浜に住む人びともそうした場面に遭遇していきます。

歴史を知るには、過去の出来事を記録した史料の存在が不可欠ですが、1923(大正12)年9月の関東大震災、さらに1945(昭和20)年5月の横浜大空襲によって横浜は多くの史料を失いました。しかし、横浜と交流のあった地域や国の機関には、横浜の歴史を語る史料が存在します。本展示では、宮内公文書館と横浜開港資料館の双方の所蔵史料から横浜の歴史を見るとともに、地域史の視点から明治天皇の姿を追っていきます。

展示構成

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 プロローグ | 11 地域に残る明治天皇像 |
| 2 立憲国家の誕生 | 12 皇室に伝えられた横浜 |
| 3 明治初年の明治天皇 | 13 皇室と地域社会 |
| 4 明治天皇の東幸と横浜 | 14 明治天皇の記録化 |
| 5 汽笛一声、横浜行幸 | 15 行幸の記録と痕跡 |
| 6 横浜行幸と高島嘉右衛門 | |
| 7 横浜御着港、御用邸へ | |
| 8 根岸・競馬大覧 | |
| 9 凱旋観艦式 | |
| 10 明治天皇の崩御 | |



明治天皇紀
宮内公文書館蔵



アクセス

- 東急東横線・みなとみらい線「日本大通り」駅③番出口から徒歩2分
- JR「関内」駅南口・市営地下鉄「関内」駅下車徒歩15分
- JR「桜木町」駅から市営バス「日本大通り駅・県庁前」・「大さん橋」下車徒歩1分

次回展示予告

開館35周年記念 郷土史の昔と今(仮称)
2017年2月1日(水)～4月23日(日)

横浜開港資料館 | 検索



明治天皇御宸影 1913(大正2)年 宮内公文書館蔵



大日本帝国憲法[原本] 1889(明治22)年 宮内公文書館蔵



凱旋観艦式 五姓田芳柳画 宮内公文書館蔵

展示解説

- ▶日時 平成28年11月3日(木・祝) / 12月3日(土) / 12月23日(金・祝) / 平成29年1月21日(土) 午後1時30分から30分程度
- ▶会場 横浜開港資料館 企画展示室
- ▶参加費 無料(入館券が必要です)

講演会「明治天皇と横浜」

- ▶日時 12月10日(土) 午後1時30分～午後4時00分
- ▶会場 横浜開港資料館 講堂
- ▶講師 篠崎佑太(宮内公文書館) / 辻岡健志(宮内公文書館) / 吉田律人(横浜開港資料館)
- ▶募集人員 80人(応募者多数の場合は抽選)
- ▶受講料 500円
- ▶申し込み方法 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、下記の住所にお送りください。はがきは1枚につき1名様のための申し込みです。
〒231-0021 横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館 宮内庁展示講座係
- ▶締切 11月22日(火)必着